



飯能ロータリークラブ会報



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

よいことのために手を取りあおう

Unite for Good

RI会長 フランチェスコ・アレツツォ

第2570地区ガバナー 坂口 孝

第3グループ
ガバナー補佐 高橋 和男

クラブ強化と活性化のために行動してください！

第3185例会 2025. 8. 27

—— 会員増強推進月間 ——

天候 晴 (NO. 62-09)

会長 中里忠夫 幹事 都築敏夫

例会日 水曜日(12:30～13:30) 当番 福島君、藤原君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX (042)973-1662

<http://www.hanno-rc.org/>

E-mail hannorc@hanno.jp

《ガバナー公式訪問》飯能・日高合同例会

- ・点鐘 中里忠夫会長
- ・ソング 君が代 奉仕の理想
- ・ビジター 2025 - 2026 年度
国際ロータリー第2570地区ガバナー
坂口 孝様 (川越RC)
国際ロータリー第2570地区
第3グループガバナー補佐
高橋和男様 (所沢西RC)
(川越RC) 八木拓也様
- ・記念卓話 坂口 孝様

会 員 数		当 日	
全 数	対 象	出席数	出席率
68名	4名	60名	88.24%

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・ガバナー坂口様、本日はよろしくお願い致します。
中里忠夫会長、市川昭会長エレクト
服部融亮副会長、都築敏夫幹事、伊澤健司SAA
・早退します。 大野(康)君
本日計7,000円、累計額199,211円。
◎3日例会当番は細田(伴)、半田会員です。

【会長報告】



坂口ガバナー、高橋ガバナー補佐、八木幹事の皆様には例会へのご出席を賜り誠に有難うございます。先程飯能日高RC入会3年未満の会員13名が懇談会に参加させて頂き、坂口ガバナーよりRCに関する分かり易いお話を頂き、大変有意義な時間を過ごすことができました。これからも両クラブに対しいろいろご指導頂けますようお願い申し上げます。例会、クラブ協議会と続きますが、最後まで皆様方のご協力を頂けますようお願い申し上げます。

【幹事報告】

9月3日11時30分より第4回理事会。役員理事の方はご出席をお願い致します。

【出席報告】MU0・無届欠席0 大野(泰)出席向上委員長

【記念卓話】

講師紹介

中里会長

所属クラブは川越RC。事業所は「(株)フィフスジャパン」代表取締役、「(株)アオイフードサービス」取締役会長。事業内容は委託給食事業、日本料理店。RC歴: 2001年、川越RC入会。2017 - 2018年度幹事。2023 - 2024年度会長。RI 第2570地区の役職は2011 - 2012年度地区副幹事、米山記念奨学委員会担当。2012 - 2015年度米山記念奨学委員会委員。2015 - 2016年度米山記念奨学委員会副委員長。2016 - 2017年度青少年奉仕部門アクト委員会副委員長。2017 - 2019年度青少年奉仕部門アクト委員会委員長、危機管理委員。2019 - 2020年度青少年奉仕委員会委員長、危機管理委員、地区副幹事。2020 - 2021年度地区幹事、財務委員会会計。2021 - 2022年度地区財務委員。2023 - 2024年度ガバナーノミニ、地区ラーニング委員会委員長、危機管理委員。その他の経歴(在職中のみ)は川越商工会議所

監事、川越商店街連合会副会長兼会長代行、小江戸川越観光協会総務委員、川越中央通り商店街顧問、川越長野県人会会長、川越市環境審議会委員、(株)鳩山カントリー常務取締役。RC表彰は第3回米山功労者マルチプル、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー。

ガバナー公式訪問例会 記念卓話

2025-2026年度 国際ロータリー 第2570地区 ガバナー
坂 口 孝 様 (川越RC)

公式訪問例会ということで素晴らしい設営をして頂きました。篤く御礼申し上げたいと思います。会長からもお話があったと思いますが、今年度から「テーマ」というものが国際ロータリー(RI)から消えました。「メッセージ」というものになったわけです。前年度は星が飛んでいるようなマークがあったのですが今年度からはそのマークも無くなってしまいました。前年度は“The Magic of Rotary”、今年度は“Unite for Good”(よいことのために手を取りあおう)、何か変わったか。今までのRIテーマはRIの会長が単独、一人で「私の年度はこうしよう」というところで決めてきたものです。今年度の“Unite for Good”はRI会長エレクトが戦略計画委員会、コミュニティ委員会の中で決めさせて頂いて最終的にRI理事会に上げてご承認を頂いたものです。ですので“The Magic of Rotary”は翌年全く変わる場合があったのですが、今年度の“Unite for Good”はこれから3年間それほど内容を変えずにいいこうということで戦略計画の中で決まっているので、大きな変化は無くなってくると思います。

6月8日、まだ今年度に入る前、私がガバナーエレクトの時にRIの会長エレクトのデ・カマルゴ氏が辞任してしまうということがございまして、会長幹事、特に執行部の方には事業計画を書かなくてはいけないような時に大変ご迷惑をかけたとお詫びを申し上げたいなと思っております。公式的な発表は「個人的な理由」「事業上の理由」等ですが、私の耳にはいろんな憶測が入ってきました。それはあくまでも噂話ということにさせて頂きたいなと思います。「“Unite for Good”は変わらないよ」というお話はすぐ頂いたのですが次が決まりませんのでメッセージが出てこない。デ・カマルゴ氏の言葉はクラブ会長のところで止まっていたと思うのですがそれも使えない。エレクトも決まっていなかった。何とかエレクトが決まってもお言葉を頂けないということで事業計画書に落とせない。送られてきたのが7月1日。新年度に入ってからでした。私が会長幹事をじらせていると受け取られても困ると思いましたが、すぐに地区事務所を通して各クラブの会長さん幹事さんにお渡しさせて頂いたということです。ちょっとひと安心したのは言っていることはほとんど変わらず、良かったなということでした。デ・カマルゴ氏は革新・継続性・パートナーシップの3つを強く言っていました。新しいアレツォRI会長はシチリア出身でナイトの称号をもっているかなりの名士でございます。彼のメッセージには要約すると友情・信頼・パートナーシップの3つが書かれていました。私が公式的な行事に妻と出て行って妻を紹介する時には「私の妻です」とは言わず「私のパートナーです」と言



うのですが、RCのパートナーシップというのは他団体といろんなことを組んでやってくださいということです。飯能さんも日高さんも力のあるクラブですから単独でやろうと思えば奉仕プロジェクト的なことは十分できると思うの

です。ただ他団体と組むことでもっとスムーズに、もっと大きなことができるのかなとも思っております。そういった意味でもパートナーシップを組んでください。例えば商工会議所と組む、観光協会と組む。私が加入している商店街連合会等と組んで事業をしていこうということになれば、お互いが重なって倍の力でもっと大きなことができるのではないかなというのがRIからの要望です。

そして、もう一つ理由がありまして、皆さんにRCを分かって頂いていないのです。地元へ出て行って「RCってどういう団体だと思う？」と言うと「お金持ちの、お時間のある方が、お昼を食べに来る会ですか」とよく言われるのです。いろんな他団体に、言葉ではなく「RCはこういうものだよ」というのを教えることができれば、会員増強にも繋がってくるのかなというふうに思います。先程、中里会長とお話させて頂いた時、商工会議所青年部の方はどちらかというところLCに入りたがるということでございました。たぶんRCの良さを分かっていないのだと思います。いくらロータリアンが「RCってこうだ」と言っても説得力に欠けるところがありますが、一緒に組んで何かをやることで「RCって凄い」「素晴らしいね」と思ってもらえるのではないのかと思っております。他団体と組んで頂くことがプロジェクトを大きくしたり会員増強に繋がったり相乗効果があるということを是非ご認識頂いて取り組んで頂きたい。RCも2000年に入って大きく変わり始めているというところだけはご認識を頂いて、ご長老の方にもご理解を頂きたいというふうに思っております。

今、RCというと、会員増強、ロータリー財団、ポリオ。この3つが柱という感じで強く言われます。「金集めの会か」と思われがちですがそうではございません。特に今年度は会員増強に力を入れてくれと、辞められたデ・カマルゴ氏も、アレツォ会長も強く推奨しています。デ・カマルゴ氏は「次年度は1に会員増強、2に会員増強、3に会員増強だ」と言っているとのことでした。アレツォ会長はそこまで言っておりませんが、やはり会員増強を強く推奨しているというところでご理解を頂きたい。

「地区テーマ」をもつことはできなくなりました。RIが言っているのは、全て“Unite for Good”でクラブまで通してもらいたいということです。我々地区はRIの出先機関みたいなものですから言うことを聞かないわけにはいきませんが、クラブの方にはそこまでのことは言えません。私共はお願いするだけでございます。クラブのテーマをもちたい方はもって頂いて良いと思います。ですので、私はテーマとい

うものは設けておりませんが、メッセージの中でお願いしているのは、会員増強を受けて「強いクラブ」「クラブを活性化させてください」ということです。会員増強というのはただ勧誘するだけでなく会員を減らさないのも一つだと思っております。前々年度のデータでは15万人が新会員として迎え入れられています。現在RIの会員数は115万人強ですから1割以上が1年間で入っている。この調子でいくととんでもない人数になってしまうわけですが1年間終わってみると16万人が退会している。要は実質1万人が減ということなのです。

相原年度(2020－2021)に地区幹事としてガバナーとこちらに来させて頂いた時、飯能は田辺会長でした。よく記憶しておりますが「素晴らしい会だな。見習わなくてはいけないな」と思ったところでございます。相原年度は地区に1,630名位居たのです。今年度の始まりは約1,530名。クラブ数も50クラブあったのが44クラブにまで減少してしまいました。これはうちの地区だけでなく日本全体から見ても今一番困っているのはクラブの終結と会員数の減少なのです。皆さんに増強に力を入れて頂いて毎年入って頂いているのです。月信を見て頂くとお分りの通りすごい人数に入っています。「強いクラブ」をつくってくれば、あるいはクラブが「活性化」すれば退会が減ってくるのではないかと。15万人が全世界に入っているのですから退会者16万人が半分の8万人になれば年間7万人が増える計算です。自然減もあろうかと思いますが16万人全部が自然減ということではないとは思っておりますので、何しろ「強いクラブ」をつくって頂きたいのです。「強いクラブ」「活性化してください」と言いますが非常に抽象的です。「強いクラブってどういうクラブなの?」「活性化されたクラブって?」ということですが、私から皆様にご提案をさせて頂きたい。これはその通り実行してくださいということではございません。会長さんをお願いしたいのも、あくまでも私の言うことが参考になれば、それを基にクラブにおいて協議会を開いて、例えば飯能RCで「活性化されたクラブ」「強いクラブ」とはこういうものだ、日高ではこうだというものをつくって頂くと、それに向かって、あとは戦略計画が「こういうクラブにしようよ」という方程式をつくって頂ければいいのかなというふうに思います。6つあります。

1) 素晴らしい人材を多く育てることができるクラブ

今はよくRCは奉仕団体、ボランティア団体だと言いますが、先程新会員の皆様にも申し上げました通り、私はそうは思っておりません。RCというのは人をつくってなんぼのクラブだと思っております。是非素晴らしい人材を多く育てて頂きたい。RCに青少年プログラムというのがありますが、そこでも主目的は最終的には世界平和ですが、その前段にあるのは「次世代のリーダーを育てる」という言葉の通り、素晴らしい人材をつくっていくことなのです。それがRCの使命であると私は思っております。

2) 会員の年齢バランス、入会年数のバランスが整っているクラブ

昨日、地区職業奉仕委員会で、第5グループのクラブの50代の方が、「自分はクラブに行くとして上から3番目なのです」とのこと。「ずいぶん若いね」と言うと「皆、若いんです」と。それで私は言いました。「若い

クラブってすごく怖い」。要するに、熱意があって行動力があるのですが本来のRCをなかなか理解できない。教えてくれる人も居ないと言葉を読んで自分なりに理解しちゃうんですね。私と同年代、ご長老の方々に是非お願いしたいのは、「RCってこうなんだよ」というのを若い人に教えてあげて頂きたいのです。我々はもう社会奉仕プロジェクトで毎年真夏に汗を流すということはできません。ただ、そのノウハウを是非若い方に教えて頂きたい。そして我々が若い年代に言う場合、伝え方にどうしてもギャップがあるので、60代位の方に間に入って頂くと、バランスの取れた感覚で、上から下へ「RCってこういうものなんだよ」というのが下りてくるのかなというように私は考えております。

3) 明るく活気に満ちた雰囲気があるクラブ

当たり前でございます。まずは明るく楽しくやってください。これが大前提だと思っております。

4) 地域社会から尊敬されるクラブ

「込み入った困ったことがある」「どこかに助けてもらいたい」と、例えば商工会議所、市役所の方が思った時、「どこに頼もうか?」「ライオンズだね」と言われるとちょっとショックなので、「RCに頼もうよ。間違いないよ」「RCのやることだから心配ないよ」と言われるようになって頂きたいと思えます。

5) 会員にRCの学習の場を常に提供できるクラブ

昔は「研修」と言ったのですが今は「ラーニング」「学習」ですので教えてあげて頂きたい。「研修」は詰め込み型。「RCってこうだ」「ラーニング」は皆にやる気を起こさせるもの。RCを覚えるといろんなところで楽しいよということを教えると、皆さん自発的にRCを学ぼうとするようになるものと思っております。ですから最初はやはり入会3年未満の方には「研修」という形をとって頂いた方がよりスムーズに動くのかなというふうに思っております。

6) 歴史と伝統を引き継ぎながら

常に新たなことに挑戦意欲があるクラブ

川越RCは来年創立75周年になります。新会員が入る時に「伝統と歴史ある川越RCに」という枕詞(まくらことば)を付ける、という習慣がありますがそこにあぐらをかいてはいけないなと思えます。間違えると常に慣習になっていってしまう。前年度踏襲型というやつですね。2000年に入ってから今、RCは変わりつつあるのに、新しいものが受け入れられなくなってしまう。そういった意味では、新しいものをどんどん取り入れようとして頂きたい。それができれば必ずそのクラブは成功してくると思えます。ご長老の方には怒られてしまうのですが、「五大奉仕」等というのは今は組織の中にはなかなか入ってこなくて「CLP」というのが入って組織管理になってきています。うちのご長老などは納得がいかないようですが、「RCが変わってきている」というところは是非ご理解頂きたいと思えますし、必要であれば私がまた来させて頂いて、ご長老の方々と膝を合わせながら今のRCのお話をさせて頂きたいなというふうに思います。

現在、「ロータリークラブ・セントラル」に入力してくれとかRCの行動計画がどうのと、執行部の方には煩わしさを与えていると思えます。簡単な方法をご教授させて頂きたい。今日は「年度計画書」をお持ちの方が多いと思えますが、開けて頂きたいと思

います。どこの「年度計画書」にもある定款第3条。なかなか定款って開かないと思います。昨日新しい定款も送らせて頂いておりますので差し替えをお願いしたいと思います。「第3条 クラブの目的」。これは「ロータリーの目的」とちょっと違うのです。それは第5条に入っていると思います。RIが今、言っているのは「クラブの目的」の方を重視して実行してくださいということです。a.~e.の5項目あります。

a. ロータリーの目的を達成すること

細かくは会長から聞いて頂ければ分かりますが、何か行動を起こす時は必ずこの「五大奉仕」に該当するから、これを読んで頂ければどこかに当てはまるということです。これを達成する、頭に入れて行動してくださいということです。

b. 五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施してください

ここで言う「奉仕プロジェクト」というのは簡単に言うと五大奉仕を全部やってくれということではございません。「地域社会奉仕」と「人道的奉仕」。何とかこの2つはやって頂きたいというのがRIからのお願いです。うちは人道的奉仕はできないけれども地域社会奉仕はやるよというのであれば、それはそれで結構だと思いますが、「戦略的優先事項」というのがあり、「大きなインパクトをもたらす」等、前年度の五十幡ガバナーが入れてくれと言ったと思います。これをやることによって基盤を上げ、参加者の積極的な関わりを促すということがクリアできます。

c. 会員増強を通じてロータリーの発展に寄与すること

これをやることによって「大きなインパクトをもたらす」「参加者の会員基盤を上げる」、この2つをクリア、達成することになります。ですから会員増強を是非皆さんにお願いしたい。「より大きなインパクト」とは、どこからがより大きなインパクトで、どこからが大きなインパクトじゃないんだということですが、この計測方法は数値で表せるとRIは言っています。何かと言うと「会員数」でございます。例えば年度初め50名だったクラブが60名になれば「大きなインパクトを与えた」ということになります。財団寄付も今までは1人210ドルを達成できなかったけれども今回達成できた。大きなインパクトでございます。それがRIの考え方で、数値で測れるものだということをご理解頂きたいと思います。

d. ロータリー財団を支援すること

これも、より大きなインパクトをもたらすというところに引っかかってくることです。

e. クラブレベルを超えた

リーダーを育成すること

研修あるいはラーニングを通じてリーダーを育ててくださいということです。これをやることで参加者の積極的な関わりを促す、適応力を高める等、実施したことになるのではないかと思います。

RIは何故こんなややこしい言

い方をするのか？ 実を言うと2019年に戦略計画の新しい計画を出してから未だに各クラブが世界的レベルではないのです。それに業を煮やしたRIがある手この手でやろうとしているんじゃないんです。クラブの人達が混乱してしまうと思いますが、是非皆さんで「今年度は何をやるのか」「何を目標にしようか」と考えてやって頂ければ、行動計画の4分の3位はクリアできるのかなというふうに思っております。そしてまず自分がやろうと思ったことを「ロータリークラブ・セントラル」の目標値として入力してみてください。最終的に結果をそこに入れて頂ければ、RIはそれ以上の要求はクラブにはしないということでございます。よく、地区からとかRIからとか連絡がバンバン来るのですが、これは命令でも何でもございません。お願いであって、やるかやらないかはクラブに決定権がございます。要は2016年の規定審議会で決まりましたクラブ運営の柔軟化と共に自治権の範囲をRIが決めております。お話させて頂きますと、RI定款、RI細則、標準RC定款。この3つについては皆さんに遵守して頂きたい。ただそれ以外は全てクラブの自治権の範疇であるので決定権はクラブにあるということをお言っております。今日私がお話したことも強制ではございません。特に「強いクラブ」の6つ提案は私からのものですので、少しは耳を傾けて頂いて、皆さんでより強いクラブ、より活性化されたクラブをつくって頂きたいなと思います。日高さんについても飯能さんについても地クラブ。日高らしさ、飯能らしさを出したクラブにしていって頂ければ必ずいつか「強いクラブ」になってくるというふうに理解しております。

ご清聴頂きまして誠に有難うございました。

・謝辞・閉会点鐘 小坂雅彦会長（日高RC）

